

Ⅲ 各教科の改訂及び授業改善のポイント

(1) 国 語

1 設置科目及び履修要件 (カッコ内は標準単位数)

現代の国語 (2)	新設	共通 必修 科目
言語文化 (2)	新設	
論理国語 (4)	新設	
文学国語 (4)	新設	
国語表現 (4)	新設	
古典探究 (4)	新設	

→ **ここがポイント!**

今回の特徴

- 「現代の国語」及び「言語文化」
……………**共通必修科目(両方の履修が必須)**
- 「論理国語」及び「文学国語」
……………現代文における論理的な文章と文学的な文章の分化
- 「古典探究」を除く全ての科目
……………各領域における授業時数の明確な設定

2 教科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することをめざす。

→ **ここがポイント!**

生徒の生涯にわたる社会生活全般を視野に入れて、社会の変化に主体的に対応できる言語能力を育成するために、言語活動の一層の充実が求められる。

3 各科目の内容

現代の国語	実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する科目 【話すこと・聞くこと】20~30 単位時間程度 【書くこと】30~40 単位時間程度 【読むこと】10~20 単位時間程度	共通 必修 科目
言語文化	上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目 【書くこと】5~10 単位時間程度 【読むこと】(古典)40~45 単位時間程度 (近代以降の文章)20 単位時間程度	

論理国語	実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする力の育成を重視した科目 【書くこと】50~60 単位時間程度【読むこと】80~90 単位時間程度	創造的 論理的思考	「思考力・判断力・表現力等」の 言葉の働きを捉える三つの側面
文学国語	深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の育成を重視した科目 【書くこと】30~40 単位時間程度【読むこと】100~110 単位時間程度	感性・情緒	
国語表現	実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う力の育成を重視した科目 【話すこと・聞くこと】40~50 単位時間程度【書くこと】90~100 単位時間程度	他者との コミュニケーション	
古典探究	生涯にわたって古典に親しむことができるよう、我が国の伝統的な言語文化への理解を深める科目 【読むこと】 ※ 1 領域のため指導時数を示していない。		

4 各科目の履修に関する配慮事項

- 【履修の順序は、次を原則とする】
- 「論理国語」「文学国語」「国語表現」及び「古典探究」の各科目については、「現代の国語」及び「言語文化」を履修した後に履修すること。

5 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業の創造

「何ができるようになるか」～国語科において育成をめざす資質・能力～

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたる社会生活に必要な国語についての特質の理解及び適切に使う技能
思考力・判断力・表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力、思考力及び想像力
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 言葉のもつ価値への認識 言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度

「何を学ぶか」～国語科において重視する学習内容・学習活動～

現代の国語

【課題1】「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の学習が十分に行われていない。

→ 「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」に関する指導の改善・充実

○ 「話すこと・聞くこと」

- まとまった話を聞いて、聞き手が同意、質問、反論、批評などを述べる言語活動
- 結論を得たり、多様な考えを引き出したりするための議論や討論などの言語活動
- 収集した情報を資料などにまとめ、聴衆に対して説明する言語活動

○ 「書くこと」

- 主として論理的な文章や実用的な文章を書く言語活動
- 主として文学的な文章を書く言語活動
- 主として情報を活用して資料などをまとめる言語活動

言語文化

【課題2】古典の学習において、言語文化を積極的に享受して社会や自分との関わりの中でそれらを生かしていくという観点が弱く、学習意欲が高まらない。

→ 我が国の言語文化に関する指導の改善・充実

○ 「書くこと」

- 本歌取りや折句などを用いて、感じたことや発見したことを短歌や俳句で表したり伝統行事や風物詩などの文化に関する題材を選んで随筆などを書いたりする活動

「どのように学ぶか」～主体的・対話的で深い学びの実現をめざして～

【「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業実践の例】

○ 授業改善のポイント → (例) 複数の文章を読み比べる活動

「現代の国語」

実用的な文章に対する複数の文章を読み、自分の考えをまとめて発表する。

(例) 条例文や、その条例に対する新聞の社説や投書、客観的な状況を示したグラフなどを取り上げ、各意見の対立点を精査しつつ、どのような修正案を提案すべきか、グループや個人で考察し、発表する。

- 「読むこと」についての指導事項
目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関連付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文書の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めること。
- 「読むこと」についての言語活動例
異なる形式で書かれた複数の文章や、図表等を伴う文章を読み、理解したことや解釈したことをまとめて発表したり、他の形式の文章に置き換えたりする活動。

「言語文化」

日本文化について論じた近代以降の文章と古典の文章を併せて読み、解釈を深める。

(例) 「和歌」について論じた文章を読み、歌に思いを託す心性が現代にも生きていることを確認する。その後、伊勢物語や土佐日記の章段と関連させてグループや個人で考察し、古典の内容をより豊かに解釈する。

- 「読むこと」についての指導事項
作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。
- 「読むこと」についての言語活動例
異なる時代に成立した随筆や小説、物語などを読み比べ、それらを比較して論じたり批評したりする活動。